

サイクルツーリズムにおける顧客層拡大のための分析

徳島大学工学部 賛助会員 ○亀井 真奈
徳島大学大学院 正会員 山中 英生

1. 研究背景

令和3年に閣議決定された国の自転車活用推進計画では、目標の1つとして「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」が掲げられ、地域活性化を目指した自転車観光が注目されている。徒歩よりも広範囲の移動が可能で、地域の観光スポットだけでなく、道中の景色が楽しめ、気になった場所へ気軽に立ち寄ることができることから、スローでロハスな志向の顧客には有望な観光スタイルと期待されている。しかしながら、例えば大浦ら¹⁾が自転車のイベント参加者で女性は約11.8%、20代以下は7.3%であることを示しているように、ロードバイクなどの長距離の自転車利用は壮年男性に利用層が偏っていることが指摘されており、上述の自転車活用推進計画で進められているナショナル・サイクル・ルートなどの自転車観光も、スポーツサイクルの印象が強く、体力のない人や、自転車利用レベルの低い人にとって敷居が高い。地域に活力を与えるには、より多くの顧客層に受け入れられる自転車観光のスタイルを開発する必要があると言える。

2. 研究目的

本研究では、自転車利用レベルの低い人や女性など、体力に自信のない人にとっての自転車観光の魅力、支障の要因を探ることで、自転車観光における顧客層拡大のための提案を行うことを目的とした。このため、実際に多様な顧客層をターゲットとしているポタリングガイドツアーの参与観察で、顧客にとっての魅力、支障の要素をヒアリングした。さらに、この結果をもとに多様な顧客層に対する魅力要求、支障要因の重要度を探るためWEB調査を実施した。この分析をもとに各対象層への顧客拡大のための提案を行う。

3. 既存研究

住友²⁾は動画を用いたWEB調査で、サイクリストには水面面積が多く、水面との距離が近い景観が特に好まれることや景観内に橋を含むものがそうでないものに比べ好まれることを明らかにした。また、北池³⁾はサイクルツーリズムにおけるガイドツアーの実態分析を行い、ガイドツアーを続けていくために必要なこととして以下の4点を指摘している。①共通して自転車の走行空間の整備が必要。②路上駐車などの違法駐車対策の徹底。③客数増加のためにガイドスタッフを確保が必要。④サイクルツーリズムとしてオンロードに加えてオフロードにも着目すべき。ただし、本研究で議論する顧客層拡大については明らかになっていない。

4. 研究方法

本研究では、自転車ガイドツアーを運営している株式会社AWAREに協力を依頼し、ツアーに参加することで、その特色を分析し、さらに参加者にヒアリングする参与分析を進めた。AWAREではイギリス製ブロンプトン社の折り畳み自転車を利用し、散歩程度に自転車に乗る「ポタリング」を専門としており、ロードバイクの観光に比べ、客層の拡大が志向されている。参加者へのヒアリングでは、参加経緯、魅力や参加時の懸念等を調査した。さらに、この結果をもとに調査項目を作成し、調査会社Fastaskに依頼してWEB調査を行った。収集サンプルは男性438、女性436、計874である。



写真1 ポタリングツアー

5. ポタリングガイドツアーの参与分析

AWAREのガイドツアーの特徴として、小人数のツアーでは自由な立ち止まりが多く、多人数のツアーでは、参加者数によって立ち止まり回数や解説時間に差があることが分かった。また、事前連絡やコース中の坂の有無に関してもツアーごとに差があった。以上のことを踏まえ、ヒアリングした結果、多くの人にとっての

魅力として、地域に根差した観光や運動不足解消などの点が挙げられた。また女性は、自転車の見た目や、立寄りスポットの充実、男性は、自転車の機能性を評価していた。支障要因には、男女ともに暑い、寒い日での日影の多さが挙げられ、女性は手洗いの間隔が長いこと、坂が多いことなどを多く挙げている。

6. WEB アンケート

収集サンプルを自転車の利用レベルで3グループに分類して比較した。「利用レベル高」は競技や健康のために日常的に自転車を利用、「利用レベル中」は週に2,3回以上、通勤

や通学、日常の移動で自転車を利用、「利用レベル低」は月に1回以下の利用者である。

表1に自転車観光のコース設定に対する評価で評点平均上位5位の項目を示す。女性のツアー参加者で評価が高かった「立ち寄りスポットの充実」は、WEB調査でも女性の評価が高い。また、「景色の移り変わりが楽しめるコース」は自転車利用レベルの低い層で他の層に比べて評価が高くなっている。一方ガイドツアー参加者に共通して評価の高かった「裏道や田舎道を走るツアー」は、WEB調査では利用レベル中低層でむしろ評価が低い。利用レベル中低層の人には裏道や田舎道の自転車走行が想像しにくい可能性があると考えられる。

表2は、ツアーの不安要素の評価で評点平均上位5位を示している。男性は「コースのマップが分からないこと」に対する不安が最も大きい一方で、女性は「1日のスケジュールが分からないこと」に対する不安が最も大きい。ガイドツアー参加者もスケジュールに関する不安は女性からの方が多く見られた。体力配分や参加に必要な確保時間が分からないことが不安要素として重要と考えられる。また「ツアー拘束時間が長いこと」も女性や利用レベルの低い層で順位が高く、ガイドツアー参加者でも、体力的不安や、行動時間が長いことが不安と挙げられていた。また、「他参加者とのスピード差が大きくなること」に関しては、利用レベルの高い男女、低い女性で不安が大きいことが明らかになった。ただし、ガイドツアー参加者で不満の多かった「時間超過」は、WEB調査では不満要素としては認識されていなかった。参加経験のない人に想像しづらい要因と考えられる。

7. まとめ

以上の分析をもとに利用レベル、性別ごとに自転車観光の方向性として以下のような提案が得られた。①利用レベルの高い女性を対象：走行環境の整った安全なコース作りを行う。おしゃれな服装などでも走行できる自転車を活用する。②利用レベルの低い女性を対象：景色の移り変わりが楽しめることに加え、下り坂や立ち寄りスポットを多く含み、少ない体力で走行可能なコース作りを行う。事前連絡に、コースの距離や平均体験時間など、参加に必要な体力の目安となるような情報を多く含む。③利用レベルの低い男性を対象：参加前の事前情報として、コースの見どころ・安全性や地域の特性、お手洗いの頻度など、コースの魅力や走りやすさが伝わる情報を多く伝える。今後は実際のガイドツアーでの試行を進めることが必要と考える。

参考文献：

- 1)大浦芳暢：自転車ロングライドイベントの実態と普及のに向けた課題に関する研究 徳島大学卒業論文 2016
- 2)住友規将：サイクリングルートの環境評価と改善提案 ―とくしまTラインを対象として― 徳島大学卒業論文 2021
- 3)北池孝成, 山中英生, 原澤拓也：持続可能なサイクルツーリズムとしてのガイドツアービジネスの実態分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.51, 2015

表1 コースに対する魅力のランキング5位の比較

	高男性	低男性	高女性	低女性
1	季節ならではの景色	季節ならではの景色	立寄りスポットが充実	季節ならではの景色
2	立寄りスポットが充実	景色が移り変わる	裏道や田舎道、隠れスポットを走る	立寄りスポットが充実
3	裏道や田舎道、隠れスポットを走る	地域の観光スポットを巡る	季節ならではの景色	景色が移り変わる
4	景色が移り変わる	立寄りスポットが充実	散在する観光スポットを巡る	地域の観光スポットを巡る
5	散在する観光スポットを巡る	散在する観光スポットを巡る	景色が移り変わる	体力がない人でも走れる

表2 ツアーの不安要素のランキング5位の比較

	高男性	低男性	高女性	低女性
1	ツアーの事前情報が少ない	マップが分からない	スケジュールが分からない	スケジュールが分からない
2	マップが分からない	スケジュールが分からない	マップが分からない	マップが分からない
3	スケジュールが分からない	ツアーの事前情報が少ない	ツアーの事前情報が少ない	ツアー拘束時間が長い
4	体調不良やけがの対処が知らされない	お手洗いの頻度が分からない	他参加者が自分と同じ速度で走行しない	ツアーの事前情報が少ない
5	他参加者が自分と同じ速度で走行しない	ツアー拘束時間が長い	ツアー拘束時間が長い	他参加者が自分と同じ速度で走行しない